

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 05010150

政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	7	介護保険事業会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	7	高齢者支援の充実	事業優先度		B	
単位施策	1	地域包括ケアの推進	政策事務分類	4	法定自治事務	
事業名	地域支援事業(保健係)		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	5	保健福祉課	
事業主体	雄武町		関係課	6	地域包括支援センター	
事業指標	介護予防事業参加者数				#N/A	
事業目標	前年度比の増		ハード/ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
住民参加 住民協働	有	主体的な介護予防への取組の実践	関係例規・法令名	有	介護保険法	
			関係個別計画名	有	介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画	

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容		
計 画 内 容	要介護になるおそれのある高齢者に対し、介護 予防に資する事業を提供することにより、要介護 者の増高を防止し、高齢者の福祉の向上を図る。	○介護予防2次予防高齢者施策 ・うつ、認知症予防、口腔機能 向上、栄養改善事業 ○介護予防1次予防高齢者施策 ・老人クラブ健康相談、健康教育 事業 ・転倒予防運動教室の開催 ・高齢者栄養改善事業	○介護予防2次予防高齢者施策 ・うつ、認知症予防、口腔機能 向上、栄養改善事業 ○介護予防1次予防高齢者施策 ・老人クラブ健康相談、健康教育 事業 ・転倒予防運動教室の開催 ・高齢者栄養改善事業	○介護予防2次予防高齢者施策 ・うつ、認知症予防、口腔機能 向上、栄養改善事業 ○介護予防1次予防高齢者施策 ・老人クラブ健康相談、健康教育 事業 ・転倒予防運動教室の開催 ・高齢者栄養改善事業	○介護予防2次予防高齢者施策 ・うつ、認知症予防、口腔機能 向上、栄養改善事業 ○介護予防1次予防高齢者施策 ・老人クラブ健康相談、健康教育 事業 ・転倒予防運動教室の開催 ・高齢者栄養改善事業	○介護予防2次予防高齢者施策 ・うつ、認知症予防、口腔機能 向上、栄養改善事業 ○介護予防1次予防高齢者施策 ・老人クラブ健康相談、健康教育 事業 ・転倒予防運動教室の開催 ・高齢者栄養改善事業		
	事業費(千円)	4,865	973	973	973	973	973	
計 画 事 業 費	財源内訳							
	国庫支出金	1,215	243	243	243	243		
	道支出金	610	122	122	122	122		
	地方債	0						
	その他	2,020	404	404	404	404		
実 績 事 業 費	財源内訳							
	国庫支出金	363	180	183				
	道支出金	181	90	91				
	地方債	0						
	その他	603	300	303				
	一般財源	307	153	154				
関 連 事 項	特定財源の名称 その他 ・地域支援事業交付金 ・一般会計繰入金	【評価・実績】	(実施内容等) ・健康相談他 482名 ・栄養改善事業 66名 ・口腔機能向上 23名 合計 571名 ※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	(実施内容等) ・健康相談他 528名 ・栄養改善事業 46名 ・口腔機能向上 24名 合計 598名 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ※事務事業評価結果	(実施内容等) ※事務事業評価結果		
	前期計画からの継続 (継続有り)		年度目標値	事業参加者数の増	事業参加者数の増	事業参加者数の増	事業参加者数の増	
			年度達成率	74%	75%	0%	0%	0%
	第6期計画への継続 (継続有り)		全体達成率	15%	30%	30%	30%	30%
			事業進捗状況	☆☆☆	☆☆☆			

事業名	地域支援事業(保健係)	評価者 管理職 職氏名	保健福祉課長	豊田通敏
		評価者 作成者 職氏名	保健係	河原真由美

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	65歳以上の町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	介護予防事業参加者数								
【抱える課題やニーズは】	加齢に伴う心身機能低下により、介護を要する状況になるおそれがある	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	介護を要する状態になることを防ぐ	① 介護予防事業参加者数(前年比)	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成26年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>571人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>598人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>104.7%</td></tr> </table>	目標年度	平成26年度	目標値	571人	実績値	598人	達成度	104.7%
目標年度	平成26年度										
目標値	571人										
実績値	598人										
達成度	104.7%										
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	心身の自立性を保持し、健康で活動的な高齢者が増える	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成26年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0!%</td></tr> </table>	目標年度	平成26年度	目標値		実績値		達成度	#DIV/0!%
目標年度	平成26年度										
目標値											
実績値											
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	健康相談、健康講話の実施	老人クラブ会員などを対象とした健康相談、健康講話、運動・栄養講座、調理実習等を実施した									
	家庭訪問による健康支援の実施	家庭訪問により、健康管理等に関する個別相談を実施した									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	高齢社会により介護予防に資する事業は市町村必須。介護を予防する事業は各事業を通じ現社会にはとても重要な事業である。
必要/概ね必要		<input checked="" type="checkbox"/> 全部	
課題あり		<input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	事業を有効的に実施工夫することができ、介護予防事業参加者数が増加し、介護に資する事業とすることができた。
有効/概ね有効		<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
課題あり		<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
		<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	老人クラブ等の高齢者団体の協力を得て効率的に事業実施を行うことができた。また、転倒予防教室等も各種団体の協力を得ながら行え、スタッフ人員削減につながった。
効率的/概ね効率的		<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
課題あり		<input checked="" type="checkbox"/> 人員削減	
		<input checked="" type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
		<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	調理実習時は実費を徴収したが、その他は経済的負担はない。老人クラブの希望日に日程を合わせるなどの調整や老人クラブ未加入者も参加できるような周知を行う等公平性を保つことができています。
公平/概ね公平		<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある	
課題あり		<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がない	
		<input checked="" type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
		<input type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
参加人数も増加し、介護予防などへの意識付けにつながったと思われる。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
高齢者人口の増加などから介護予防の必要性はとても重要である。地域包括支援センター等関係機関と連携の下、介護予防に資する事業を行う必要性が高い。		

※展開方向の区分
 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 終了 休止 廃止